

QOL

Quality Of Life

QOL
サポーター
新潟

vol. **51**

～繋がり～

08 学外実習体験記

09 第19回「新潟医療福祉学会学術集会」開催報告

10 キャンパスニュース

02 「特集1」潜入!! 学生寮「ミミズ」の伍桃

04 「特集2」「連携総合ゼミ」開催報告

06 「くらしサイエンス」膝の痛み対策



共用棟

充実した寮生活をサポート！
寮生が共同で使用



食堂

食堂では栄養バランスの良い食事をとることができます。友だちと楽しく食べるご飯はとっても美味しい！



大浴場

清潔感のある大浴場で1日の疲れを癒しています！足を伸ばしてゆったり湯船に入れるので大人気！

特集1



キャンパスまで徒歩7分の立地にある学生寮「N-Village 伍桃」では、朝・夕2食の食事提供や管理員配置による万全なセキュリティ体制により、寮生一人ひとりの安全・快適な暮らしを支えます。

学生寮

N-Village 伍桃

全26棟606室

住居棟



ミーティング
ルーム

友だちとおしゃべりや勉強など、色々な使い方ができるミーティングルームを設置しています。キッチンも付いているので、みんなで料理を作ってミニパーティーもできちゃう！



居室

ベッドや机、クローゼット付きの快適な6帖ワンルーム。Wi-Fiも完備されているので、インターネットも使い放題！

その他
にも…

多目的スペース コンビニ自販機 シャワー室 コイン式洗濯機 など、充実した設備環境が整っています！



寮生にインタビュー!



理学療法学科 1年
早川 涼
長野県 松本美須ヶ丘高校出身

学生寮に入寮したきっかけや、入寮して良かったことを教えてください。

長野を離れ初めての一人暮らしだったため、最初からアパートに住むよりも、まずは学生寮で一人暮らしに慣れた方が良いのではないかと両親の意見もあり、N-Village伍桃に入寮することを決めました。入寮して一番良かったことは、平日に朝食・夕食が付いていることです。朝は時間が無かったり、夜は授業の疲れで作るのが大変だったりするため、食堂で食べられることはとても助かります。また、管理栄養士の方がメニューを考えてくれるので、栄養バランスが偏ることなく健康的な食事が取れるのも嬉しいです。その他にも、寮生同士がミーティングルームや廊下集まって他愛のない話をしたり、食堂に行ってみんなで勉強したりするのも、寮に住んでいるからこそできることだと思います。入寮したことで友だちの輪が広がり、他学科の友だちもできました。色々な人と関わることができ、コミュニケーション能力も養うことができていると思います。このように、整った環境で充実した生活ができるのがN-Village伍桃の魅力だと思います。

寮での普段の生活や、印象に残っているイベント、交流会について教えてください。

帰宅して夕食を食べた後、夜はそのまま食堂で勉強をしたり、次の日のお弁当のおかずを作ったりしています。また、本学は平日だけでなく土日・祝日もスクールバスが運行しているため、買い物にも行きやすく休日に自炊することも多いです。その他にも、寮では一年を通して様々なイベントを行っているため、普段の勉強の息抜きもかねて様々なイベントに参加しています。参加した中で印象に残っているのはスポーツイベントで、他学科の同期や先輩とチームを組んで楽しくバレーボールをしたり、試合が終わった後にもらった豪華賞品をみんなとシェアしたりと、とても楽しかったです。1日だけのイベントでしたが良い思い出になりましたし、改めて入寮して良かったと実感しました。



スポーツイベント



豪華賞品!

1日のスケジュール

	5:30	8:30~9:00	9:00~10:30	10:40~12:10	12:10~13:10	13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	18:00	18:20	24:00
平日	起床	登校	1限目	2限目	昼休憩	空きコマ	4限目	5限目	下校	帰宅	就寝
休日	6:00 起床	8:30 出勤	9:00~16:40 アルバイト				17:30 帰宅	17:30~19:00 洗濯・片付け等	22:00 就寝		

N-Village伍桃では、学科・学年の枠を越えて交流ができる様々なイベントを行っています!



年間スケジュール

- ④ 入寮生歓迎会
- ⑤ 映画鑑賞会
- ⑥ 連携教育講演会
簡単!料理教室
救急救命講座
- ⑦ 七夕パーティー
定期テスト勉強会
- ⑨ 映画観賞会
- ⑩ 専門職を知る会
映画観賞会
- ⑪ 連携研修会
簡単!料理教室
映画観賞会
- ⑫ クリスマスパティー
冬の大掃除レクチャー会
映画観賞会
- ① 映画観賞会



※予定は変更となる場合があります。



費用

賃料 39,000円/月額

管理費 15,000円/月額 ※水光熱費等含む

食費 18,000円/月額

連携総合ゼミで

「チーム医療・ケア」を実践的に学ぶ

連携総合ゼミとは

「連携総合ゼミ」とは、本学の特徴的な取り組みの一つである「連携教育」の一環として、4年次前期に開講されるゼミで、これまで学内外で修得した専門知識・技術を総動員し、「チーム医療」を実践的に学んでいきます。

本年度の「連携総合ゼミ」に向けた支援策を意見交換し、検討結果を発表します。では、新潟薬科大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟リハビリテーション大学と、本学が学術提携を結んでいるフィリピンのアンレス大学、サント・トマス大学、台湾の国立陽明大学、中山医学大学の学生もチームの一員として加わり、国際的な視野の拡大など、さらに「チーム医療」の学びの幅が広がりました。

特集2

連携総合ゼミ

開催報告

【開催期間】

2019年9月2日(月)～6日(金)

連携総合ゼミの流れ

- ① 担当する専門職を理解
症例に対する支援策について、参考書などを用いながら自己学習を行い、自身が目指す専門職の役割などについて理解・知識を深めます。
- ② 他の専門職を理解
自己学習の成果をグループ内で発表し、各専門職の役割や専門用語などの情報を共有することで、他の専門職への理解を深めます。
- ③ 各専門職の支援策を共有
各専門職の立場から意見や支援策を出し合い、グループ内で支援策の内容を共有することで、他の専門職との連携について理解を深めます。
- ④ 協働して支援プランを作成
グループ内で共有した支援策をもとに、各専門職の立場から意見交換し、対象者に対して最善となる具体的な支援プランを作成します。
- ⑤ グループ発表
これまでの研究成果をグループ内で各自分担して、発表会に向けた資料作成を行います。発表会ではパワーポイントを使用して代表者が発表します。



2019年度

連携総合ゼミテーマ一覧

- 脳性まひ(疑い)児と育児不安をもつ母への成長・発達支援
- 精神疾患を抱える家族(多問題家族)への支援
- 産声が聴きたい、育児希望のある不妊症夫婦への支援を考える
- 海外の地域で暮らす障害のある人への多職種連携支援
- 重度四肢まひ者の家庭復帰計画
- 高齢者の骨折予防・治療と生活支援
- 家族と一緒に暮らしたい(認知症患者の在宅支援)
- チーム間での情報に着目した再発心原性脳塞栓症
- 災害時における避難所生活支援～私たちができること～
- 中高年者のメタボリックシンドロームの改善
- 児童虐待死事例の検証(報道事例)
- 高齢者糖尿病合併症の支援策
- 高齢者への投薬
- アスリートへの栄養・投薬サポートとドーピング対策
- 聴覚障害のある幼児を持つフィリピン人の母親への支援
- 原子力災害への対応～多職種連携できることは何か?～
- 視覚・聴覚に障害をもつHARING症候群の子どもの発達・学習支援
- 四肢不自由者の自宅生活復帰を支援する～対象者との対話を通して～





四肢不自由者の自宅生活復帰を支援する

事例テーマ

～対象者との対話を通して～

対話によって 自分の壁を打ち破る

医療情報管理学科 伊藤 嘉高 講師

「専門性」とはやっかいなものです。専門性は確かに武器になります。対象者の生活を支える糧になり、自分の生活を支える糧になります。しかし、専門性はとくとして大きな壁を作り出してしまいます。目の前の複雑な出来事に対して自分の専門性だけで判断して、それで満足してしまうという心の壁です。その壁は、医療や福祉に限ったことではなく、あらゆる専門職に見られるものではないか。私も例外ではありません。

しかし、これからの医療福祉を支えようとする若々しい学生たちは、どこまでも実直で、どこまでも柔軟な心を持ち合わせているはず。自らの専門性を不断に高めつつも、それだけにとられない真のプロフェッショナルになつていく—その手助けならば私たちにもできるのではないか。それが、今回のゼミの背景にある思いでした。

とはいえ私の力には限界があります。そこで登場いただいたのが、脳性小児麻痺の当事者である齋藤直希さんです。齋藤さんは、脳性麻痺により四肢不自由の全介助状態になりながらも、自らの壁をやることをやめて、普通高校に進学し、大学在学中に行政書士の資格を取得するなど、いくつもの壁を打ち壊してきた方です。齋藤さんと対話を重ねることだけでも、学生にとって大きな学びになるのは間違いありませんでした。

今回の事例は、齋藤さんがかつて経験された右上腕骨頸部複雑骨折による入院から自宅生活への復帰を支援するというものであり、齋藤さんには模擬患者役を務めていただきました。さらに、今回の事例は、それまで齋藤さんの介助を一手に担っていた母親が同時に脳梗塞になることで（実際には時期がずれていますが）、家族介助が一切見込めなくなるという要素が加わり、多職種の連携を不可欠なものとなりました。

こうして、複数の大学から多様な学科の学生が集い、ビデオ通話を介した齋藤さんとの対話が始まりました。当初は、あくまでそれぞれの専門性から、齋藤さんの心身の状態を確認し、齋藤さんの「希望」を聞き取っていました。そして、それぞれに支援のあり方を考えていました。それだけであれば、2日で終わる内容です。

しかし、ここからが連携総合ゼミの醍醐味です。自らの支援策を他職種と共有しようとする、他の職種から別の視点による突っ込みが様々に入ってくるのです。そうして、私たちのゼミの場合は、それぞれが齋藤さんにもっと聞くべきことがあったと気づき、齋藤さんとの対話が繰り返されていくことになりました。

こうして、齋藤さんの24時間の生活を支える充実した支援策ができあがりました。しかし、新たな疑問が立ち上がります—「これは本当に実現可能なプランなのか?」そこで、「全員がケアマネになる」とのかけ声のもと、図書館での法制度の学習が始まりました。学生たちは、やがて、障害者総合支援法にたどりつき、利用可能なサービスを調べ上げるとともに、経済面の事情も踏まえたプランと発表スライドを作り上げました。

学生が最も実直かつ柔軟であったのはここからです。発表日前日に、齋藤さんにプレゼンを行ったところ、「限りなく現実に近いプランになつている」という驚きとともに、いくつかの重要な点について現実との相違点を指摘いただきました。そこで学生たちは、齋藤さんの指摘を受けて自分たちのプランを作り替えしまつたのではなく、自分たちのプランと齋藤さんからの指摘とを分けたスライドを作成し、発表したのでした。

発表後の質疑応答の時間には、齋藤さんにもビデオ通話で登場していただき、最後まで学生との対話を行っていただきました。発表会後は、涙あり、笑いありの打ち上げも行われました。最後に齋藤さんからのコメントを、「学生の皆様の、それぞれの専門家としての大成を心から祈り願っています。今を生きる、支援を必要とする皆様のためにも……」。そして、学生の皆様「ご自身の人生のためにも……」。

写真で振り返る 当日の様子



ビデオ通話で
齋藤さんと対話!



図書館で
ケアマネになる!



IPEマスターの
認定証とともに!

参加学生のコメント



作業療法学科 4年 青木 江里奈

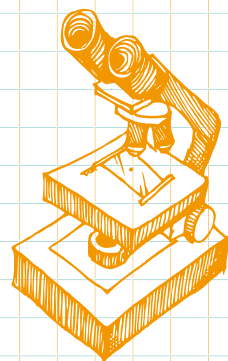
最初は不安や緊張がありましたが、他の講義や実習では学べないことが学べました。対象者の方を多職種で支援するためには、自分の専門外のことも理解しようとする姿勢が欠かせませんでした。対話を重ねることで、他の職種の専門性をお互いに理解し、対象者の方の価値観を深く知ることができました。大変なこともありました。本当に充実した時間が過ごせました。今回の学びを臨床で患者さんと関わる際に活かしていきたいと思います!



くどし サ イ エ ンス

テーマ

膝の痛み対策



膝に痛みを抱える人は
約800万人！

変形性膝関節症(以下、膝OA)という、加齢に伴い膝の軟骨がすり減り、膝に痛みや腫れをきたす疾患があります。この疾患の有病率は年齢とともに上昇し、40歳以上の男性で42.6%、女性ではなんと62.4%に及んでいます。さらに、この有病率から膝OAの患者数を推定すると、2530万人(男性860万人、女性1670万人)となります。この数字は症状が無い方も含んでいるため、実際に膝の痛みを抱えている方の人数は約800万人であると報告されています(※1)。また、要支援が必要となった原因の割合として、膝OAを含む関節疾患は第1位となっています(※2)。要支援は要介護にも繋がるので、膝OAを予防することが重要だと考えられます。

なぜ膝が痛くなるのか？

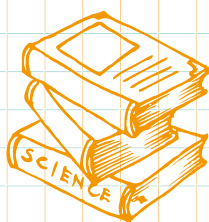
膝が痛くなる、すなわち膝OAを発症する原因としては、主に遺伝、加齢、性別(女性)、肥満(body mass index(BMI)25以上)、大腿四頭筋(太もも前面の筋肉で、膝を伸ばす働きを持つ)の筋力低下などが挙げられています(※3、※4)。遺伝や加齢、性別という原因は変えることができません。したがって、膝の痛みを予防するためには、肥満と大腿四頭筋の筋力低下をいかに防ぐかが大切になります。



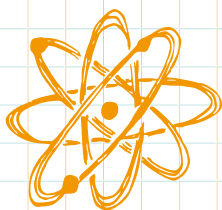
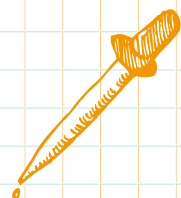
理学療法学科
鈴木 祐介 助教

膝の痛みを予防して
いつまでもイキイキと！

$$V^2 = U^2 + 2as$$



サイエンス

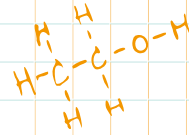


膝伸ばし運動

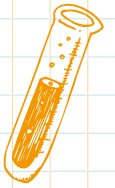
安定した椅子に座った状態で、しっかり最後まで膝を伸ばす

目的 膝を伸ばす筋力を向上させることで、日常生活での膝の負担を減らす

回数 10回を1セットとして、1日3セットを目安に



膝の痛みは筋トレで予防!



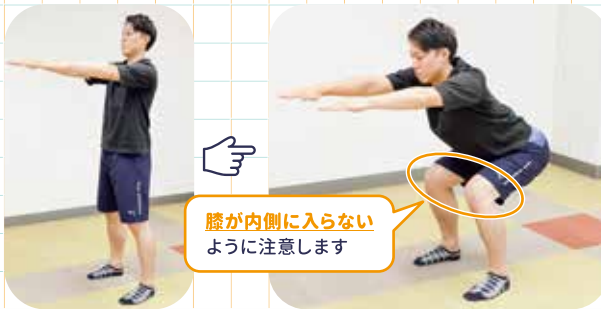
前述のように、膝の痛みを予防するには大腿四頭筋の筋力低下を防ぐことが大切です。そのためには、大腿四頭筋をターゲットにした筋力トレーニング(筋トレ)を行うことが、国際的に推奨されています(※5)。ここでは、ご自宅で簡単にできる筋トレを2つ紹介します。どちらも膝の痛みの予防に大切な運動なので、ご自身のレベルに合わせて行ってみてください。膝の痛みを予防して、いつまでも生き生きと生活していきましょう。

スクワット

脚を肩幅に開いてスクワットを行う

目的 膝やお尻の筋力を向上させることで、日常生活での膝の負担を減らす

回数 10回を1セットとして、1日3セットを目安に



むずかしかったら...

別の方法

もし通常の方法が大変であれば、机や壁などを持って行っても構いません。



運動の注意点

- 膝が熱を持っている場合や腫れている場合は、運動は行わず、近くの整形外科医院を受診してください。無理に運動を行うと膝の痛みが悪化する可能性があります。
- 回数はあくまで目安です。ご自身の疲労感や痛みに合わせて適宜調整してください。あくまで無理のない範囲で行い、継続することが重要です。
- 「スクワット」は「膝伸ばし運動」に比べて、膝への負担が大きい運動になります。「膝伸ばし運動」が問題なく行える方のみ「スクワット」を行うようにしてください。

参考文献

- ※1 吉村典子: 一般住民における運動器障害の疫学—大規模疫学調査ROADより。THE BONE24:39-42, 2010.
- ※2 厚生労働省大臣官房統計情報部: 平成24年グラフでみる世帯の状況—国民生活基礎調査(平成22年)の結果から—。統計印刷工業株式会社, 2010.
- ※3 Doherty M: Risk factors for progression of knee osteoarthritis. Lancet 358: 775-776, 2001.
- ※4 大森豪: 変形性膝関節症の病態と悪化因子。新潟医学会雑誌117:397-400, 2003.
- ※5 McAlindon TE: OARSI guidelines for the non-surgical management of knee osteoarthritis. Osteoarthritis Cartilage 22(3):363-88, 2014.

$$S = \frac{U^2 \sin^2 \theta}{g} = \frac{U^2}{g} 2 \sin \theta \cos \theta$$

学外実習に参加しての感想

児童センターでの実習初日は、子どもの年齢によって接し方を変えた方が良いのかと考えていました。しかし、実際に多くの子どもと接してみると、年齢は同じでも性格はもろろんのこと、好きなことや嫌いなこと、得意不得意も一人ひとり異なることを改めて実感したため、それからは「子は個」という言葉を大切にしつつ、平等に子どもと接するように心がけました。遊びの指導を行う際には緊張や焦りで子どものごとを考えられず、「これは不十分だった」、「どうしたらよかったのか」と悩むことも多々ありましたが、毎日職員の方からアドバイスをいただき勉強になりましたし、悩みも聞いていただいたことで励みにもなりました。子どもや保護者とのコミュニケーションだけでなく、職員とのコミュニケーションも積極的にとることができ、充実した実習になりました。

今後の抱負

今後は、実習で感じたことや多くの子どもたちから学んだことを活かして、子どもとその家庭を取り巻く現状をより理解していきたいです。子どもに関する不幸な事件は現在も多く報道されていますが、児童福祉に携わることを目指す者として不幸な事件を他人事にせず、どうすれば防ぐことができるのかをしっかりと考えていきます。また、保護者の方々の声にも耳を傾け、子どもや保護者に安心してもらえる児童厚生員になれるよう努力したいと思っています。今回の実習での経験をもとに、社会福祉の諸課題への関心を深め、将来の専門職像を追求していきます。

学外実習体験記

実習先

豊栄児童センター



社会福祉学科 2年
 龍島 あかね
 茨城県 取手松陽高校出身

目標とする資格	社会福祉士(国家資格)、児童厚生一級指導員
学外実習科目	児童館実習 I

実習先

文化学園 長野中学・高等学校



健康スポーツ学科 4年
 大塚 樹也
 長野県 文化学園長野高校出身

目標とする資格	中学校・高等学校教諭一種免許(保健体育)
学外実習科目	教育実習

学外実習に参加しての感想

私は長野県の文化学園長野中学・高等学校で3週間の教育実習を行いました。担当させていただいたホームルームや授業、部活動だけでなく、休み時間や放課後にも様々な生徒と関わることができました。今回の実習で多くのことを学びましたが、特に、教師の発言は良くも悪くも生徒に影響を与えること、生徒の反応や言動が予想とは違うということを実感しました。これらに注意しながら行動することは難しいですが、それが教師としてのやりがいに繋がっているということも知りました。また、陸上競技部を指導した際、私が行ったアドバイスによって生徒のできる動きが増えたこと、ポイントを絞って練習することが大切であるとしつかりと伝えられたことが嬉しかったです。ご指導いただいた先生をはじめ、生徒の皆さん、他の教育実習生のおかげで素晴らしい教育実習となりました。本当に感謝しています。

今後の抱負

私の夢は、教師として教育の最前線で生徒たちの将来の手助けをすることです。今回の教育実習で実際に生徒たちと関わってみて、その思いが一層強くなりました。また、授業や部活動の指導を行う際は、私自身が今まで経験したことも伝えていき、一人でも多くの生徒が充実した学校生活を送れるようサポートしていきたいと感じました。すぐに夢を実現するのは難しいかもしれませんが、いずれ実現できるように、そして理想の教師になれるようにこれからも勉学に励んでいきたいと思っています。

2019年10月26日(土)、新潟医療福祉大学において「第19回新潟医療福祉学会学術集会」が開催されました。発表後には、会頭賞1名、奨励賞5名の表彰が行われました。

本学術集会は、本学の強みである保健・医療・福祉・スポーツ分野における人材育成を活かした「アスリート」を支援する先進的保健・医療・福祉・スポーツネットワークをメインテーマに掲げ、特別講演では日本障がい者スポーツ協会参事の中森邦男先生に「2020年東京パラリンピックが目指す無限の可能性」をテーマにご講演をいただきました。また午後は「QOLを向上させる最先端スポーツ活動をテーマにシンポジウムを開催いたしました。本学のリハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による「アジアに秀でる先端的研究拠点」の形成を目標に、地域住民からアスリートまですべての人が安全にスポーツを楽しみ幸せな生涯を過ごす新潟県を創出するSINIZ (Sports & Health for All in Niigata)プロジェクトを背景とした、東京2020オリンピックパラリンピック以降のレガシーについてディスカッションを行いました。

特別講演

座長 東江由起夫「新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科学科長／教授」
講師 中森 邦男「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 参事」
タイトル 「2020年東京パラリンピックが目指す無限の可能性」

パラリンピックの歴史や現状と課題、2020年の東京パラリンピックに向けた取り組み、医療・福祉・スポーツ分野で活躍する人材や専門職が持つ可能性とあるべき姿について解説が行われました。



第19回 新潟医療福祉学会 学術集会 — 開催報告 —

アスリートを支援する 先進的保健・医療・福祉・スポーツネットワーク

テーマ

シンポジウム

座長 西原 康行「新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科学科長／教授」
シンポジスト 中森 邦男「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 参事」
 東江由起夫「新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科学科長／教授」
 佐近 慎平「新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科学科長／教授」
 江玉 睦明「新潟医療福祉大学 理学療法学科 教授」

テーマ 「QOLを向上させる 最先端スポーツ活動」

シンポジウムでは、地域在住の切断者を本学に招いて活動している障害者陸上教室や車いすバスケット等の障害者スポーツに関する解説、リハビリテーションにスタッフとして参加した経験や得たことに関する解説が行われました。また、本学で行われている強化部に所属するアスリートをチームアプローチによってどのように支えているのかという事例についても解説が行われました。本学の試みを中森先生に聴いていただき、高い評価を得ることができました。



ポスター展示

午後のポスター発表では学生食堂MOMOCIEの広々とした会場に89枚のポスターが立ち並び、各発表者の説明と質疑応答のやりとりが各所で見受けられました。ここには企業展示やリフレッシュコーナーも設置され、多くの学生でにぎわいました。

表彰式

閉会式では、会頭賞、奨励賞の表彰が行われ、学生院生若手教員の計6名(理学療法学科／中村雅俊講師・鈴木祐介助教、義肢装具自立支援学科／郷貴博助教、診療放射線学科／櫻井典子助教、健康スポーツ学科／上田純平助教、義肢装具自立支援学科4年／市川瞳)に、山本会頭から賞状と副賞および山本会頭の著書が贈られました。



出展企業様2社、広告企業様48社、寄付企業様11社と、多くの企業の皆様よりご支援をいただきました。また当日は演題数95題(口演6題、ポスター 89題)と前回学術集会よりも増え、若手教員、大学院生、学生等の発表が目立ち、345名が参加しました。次回の第20回新潟医療福祉学会学術集会は、2020年10月に開催される予定です。来年度も多数のご参加をお待ち申し上げます。

第19回新潟医療福祉学会学術集会 実行委員長 勝平 純司(義肢装具自立支援学科)

【水泳部】
日本選手権(25m)で日本新・アジア新記録を樹立!
日本学生選手権で2年連続インカレチャンピオン
輩出&創部初のシード権獲得(女子)!

2019年10月26日(土) 27日(日)に、東京辰巳国際水泳場にて行われた「第61回日本選手権(25m)水泳競技大会」で、松井浩亮選手(本学職員)が男子50m自由形決勝で20秒95の日本新・アジア新記録を樹立し、優勝しました。本学水泳部では初の個人種目での日本新記録樹立となります。

また、2019年9月6日(金)〜8日(日)に、東京辰巳国際水泳場にて行われた「第95回日本学生選手権水泳競技大会」で、女子200m平泳ぎに出場した深澤舞選手(健康スポーツ学科3年/栃木県立黒磯南高校出身)が2分26秒17で優勝し、昨年の水沼尚輝選手(2018年度卒業生・現本学職員)に続き2年連続でインカレチャンピオン輩出という快挙を達成しました。さらに、総合成績8位以内に与えられる「シード権」を、創部15年目にして女子が初めて獲得しました。女子のシード権を獲得した大学は、日本体育大学、神奈川大学、中京大学、東洋大学、日本大学、筑波大学、本学、早稲田大学の8校です。今後とも、水泳部へのご声援をよろしくお願いたします。



深澤 舞 選手



松井 浩亮 選手

【男子サッカー部】
2年連続Jリーグ誕生!
健康スポーツ学科4年の喜岡選手が
AC長野パルセイロに加入決定!

本学男子サッカー部所属の喜岡 佳太選手(健康スポーツ学科4年/船橋市立船橋高校出身)が、来季より、J3所属のAC長野パルセイロに加入することが内定しました。喜岡選手は「幼い頃からの夢であったプロサッカー選手をAC長野パルセイロでスタートできることを嬉しく感じます。これまで自分に携わっていただいた方々への感謝の気持ちを忘れずに日々努力したいと思います。」とコメントしました。今後とも応援よろしくお願いたします。



喜岡 佳太 選手



【義肢装具自立支援学科】
国内大学初!世界で活躍できる義肢装具士養成教育機関として
世界最高水準の認証を取得

2019年8月26日(月)、本学の義肢装具自立支援学科は、日本の大学では初となる国際義肢装具協会(International Society for Prosthetics and Orthotics: 以下ISPO)が定める義肢装具士養成教育機関の最高水準であるISPO Prosthetist and Orthotist (田Category D)として認証されました。現在、ISPO Prosthetist and Orthotistの認証を受けている教育機関は、本学を含めて世界で20校と非常に少ない状況です。今後、本学科の卒業生は、世界最高水準の教育を受けた「義肢装具士」として、日本国内はもちろんのこと、海外での活躍が期待されます。



【ダンス部】
全日本高校・大学ダンス
フェスティバルにて
特別賞を受賞!

2019年8月6日(火)〜9日(金)に、神戸文化ホール・神戸市立中央体育館にて、国内最大級の創作ダンスコンクール「第32回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」が開催され、本学ダンス部は創作コンクール部門に参加しました。その結果、決選で特別賞(主題にふさわしい斬新な動きの発見に対して)を受賞しました。今回の受賞は、4年ぶりの受賞であり、現在所属する部員たちは全員が初受賞となりました。今後ともご声援よろしくお願いたします。



【社会福祉学科】 「新潟県の人口減少を考える新潟医療福祉 大学生集会」を開催!

2019年7月11日(木)に、新潟県新潟地域振興局と本学社会福祉学部との共催により、「新潟県の人口減少を考える新潟医療福祉大学生集会」が開催され、社会福祉学科の4年生47人が参加しました。前半はミニ講義として、「新潟県の人口減少問題」や「新潟県内の福祉介護分野における就業状況」「新潟地域振興局の取組事例」について紹介いただき、後半はゼミごとに分かれ、「若者自らが考える人口減少問題への処方箋」と題し、新潟県の医療・福祉介護を担う若者の視点で、「任んでよし」「働いてよし」「結婚してよし」「子どもを生み育ててよし」の新潟県のありたい姿についての活発な意見交換が行われました。



スポーツの祭典を盛り上げる! 「東京五輪音頭12020」動画を公開!

2020年に行われる世紀の祭典に向けて日本全体が盛り上がりを見せてきましたが、本学にもスポーツ界で活躍が期待されているアスリートが在籍しており、国内外で活躍を見せています。また本学には、スポーツを「指導する」「医療で「支える」ことを学ぶ学生たちも在籍しています。そこで、「東京五輪音頭12020」を踊り、4年一度のこの大会を応援し盛り上げていくことを目的に動画を制作しました。動画には、本学の車いすバスケットボールやダンス部など、スポーツに関する学科や部活・サークルの学生を中心に総勢200名が参加しています。ぜひご覧ください。



動画はこちら



SHAINプロジェクト活動報告 文部科学省 平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」選定

リハビリテーション科学とスポーツ科学の 融合による先端的研究拠点



— Sports & Health for All in Niigata —

健康づくりフェスティバルにて
健康増進及び介護予防活動の
実施!

2019年10月6日(日)に、新発田市生涯学習センターにおいて、健康づくりフェスティバルが開催されました。

健康づくりフェスティバルは、新発田市が関連団体と協力し毎年実施しているイベントで、地域住民の健康づくりに対する意識向上を図る目的で開催されています。

当日、本学は4つのブースを設け、教員のサポートを受けながら学生が主体となり、小児や高齢者に対して測定や説明を実施しました。健康スポーツ学科は下肢筋力の測定と筋力維持に関する説明、理学療法学科は握力測定と適切な身体活動の説明、医療情報管理学科は口腔機能の測定、健康栄養学科はサルコペニア予防の説明を行いました。

子ども連れのご家族の参加も多く、様々な世代に対して健康づくりの意識向上を図ることができました。また、健康に関する悩みを抱えている地域住民の方から多くの相談をいただき、アドバイスをさせていただきました。

今後このような活動を通して、新潟県民のQOLを向上するための取り組みを行っていきたいと思います。



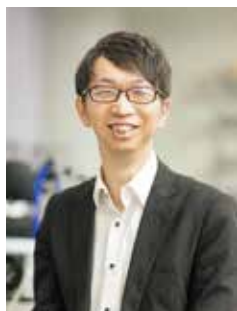
脳へ電気刺激を与えることで
一次体性感覚野の活動が変化し、
指の感覚機能が向上!
(理学療法学科 齊藤 慧 助教ら)

指先で触れた物の形状を判別する能力は脳卒中などの患者において変容することが知られています。近年では物体の形状を判別するとき一次体性感覚野が大切な働きをしていることがわかってきました。しかし、判別する能力を向上させる方法については明らかになっていませんでした。そこで、理学療法学科の齊藤 慧 助教らの研究グループは、脳の活動を変化させることができる経頭蓋電気刺激を一次体性感覚野に用いて検証しました。

その結果、微弱なノイズ刺激(50%)や微弱なパルス状の直流電気刺激(70%)を与えることで、一次体性感覚野の活動が変化し、指先に触れた溝の向きを判別する(触覚方位弁別)能力が向上することが明らかになりました。研究成果は、国際誌「Behavioural Brain Research」に掲載されました。

《研究者からのコメント》

本研究は、人為的な介入(50%のTMS)を行うことで一次体性感覚野の活動が変化し、指先からの触覚の入力に基づいて溝の向きを判別する能力を向上させることを明らかにしました。この研究結果は、脳卒中後の感覚機能障がいに対する新たな介入手段となる可能性を秘めています。



SHAINプロジェクトとは 文部科学省 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業の選定プロジェクトの通称。リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合により「Sports & Health for All in Niigata (SHAIN) = 地域住民からアスリートまですべての人が安全にスポーツを楽しみ、幸せな生涯を過ごす新潟県」の創出を目指します。



新潟医療福祉大学 広報誌「OOL」サポーター新潟
Vol.51 2019年12月20日発行



新潟市北区島見町1398番地 TEL: 025-257-1445(代)
https://www.niuhw.ac.jp
【入試事務局】TEL: 025-257-1445(代) E-mail: nyusisi@niuhw.ac.jp

「英語を「学び」「使う」保育園」

「新潟医療福祉大学附属
インターナショナルこども園」

本学では、2016年度より開始され
た内閣府「企業主導型保育事業」による保
育施設を、2018年4月に開設しまし
た。本学教職員・学生、地域の方を対象に
以下の概要にて園児を募集しておりますの
で、関心のある方はお問い合わせください。

設置目的

① 通勤・通学先となる大学内に設置する
ことで、子育て世代の教職員や学生への
「仕事・勉学」と「育児」の両立を支援し、
女性活躍の推進、優秀な人材採用確
保、ならびに学生の就学支援を図る。

② 募集定員に地域のお子様
を対象とした「地域枠」を
設け、地域社会の子育て
支援に貢献する。

③ グローバル社会で活躍でき
る人材へのニーズ拡大によ
り、英語教育の重要性が
一段と増大する中、常勤
講師として外国人講師を
配置することで、幼少期
から日常的に英語に触れ
ながら、英語でのコミュニ
ケーションの楽しさを身に
つけさせる。

募集定員

10名(地域枠6名を含む)
〔0歳児(生後6ヵ月)〕
1名、1歳児1名、2歳児2
名、3歳児1名、4歳児2
名、5歳児3名
(2019年12月1日現在)

入園児
募集中

2020年度の
入園申込も
受付中

保育時間

7時30分～19時00分

※空き定員がある場合は1歳児～5歳児
の「二時預かり」を行います。

休園日

原則として、土曜、日曜、祝日、お盆、年末
年始。新潟医療福祉大学教職員年間予
定表で定める休日に準じております。
※2020年4月より、平日は年末年始
(12/29～1/3)を除いて本学休校日
も開園します。

入園に関するお問い合わせ先

新潟医療福祉大学附属
インターナショナルこども園(園長/栗田)
TEL: 025-257-14004



COLUMN
医福のアレナニ?

Vol.2

学内で見かけた猫の足跡。
辿っていくと猫神社があった!?



学

内に猫の足跡を発見し、辿っていく
とそこにはなんとたくさんの猫が!
棚には猫に関する本が並んでおり、猫たちが
おすすめの本を紹介しているようにも見え
ます。誰しもがいつい立ち止まってしまう、
ほっこりしている様子。足跡はまだ続いてお
り辿っていくと、次は猫神社が現れました。
そこには、『合格祈願』と書かれており、猫み
くじが備えてありました。国家試験を控え
る学生や、オープンキャンパスで学内を訪れ
た高校3年生・保護者が合格祈願のおみく
じを引いているそうです。
訪れた方に癒しをくれる本学の猫コー
ナー。ぜひ本学を訪れた際に立ち寄りみて
ください。



猫みくじ



猫コーナー ハロウィンversion



猫神社



猫コーナー クリスマスversion

